

E 資源の有効利用

関連するSDGs

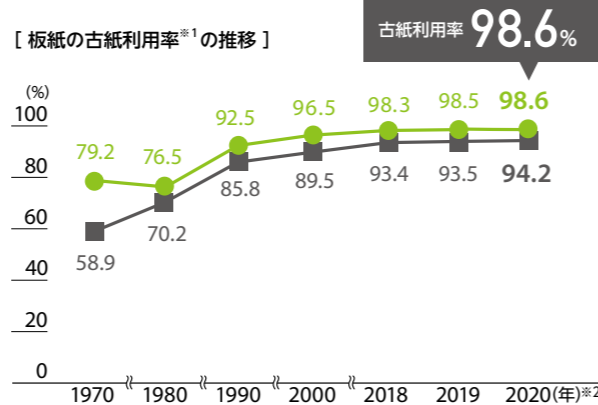


基本的な考え方 限りある資源を持続的に有効利用していくため、リサイクルを通じた資源の循環利用に加え、利用を最小限に抑えることに努めています。また、企業や業界団体と連携したリサイクル技術の開発や、各種教育機関でのリサイクルの啓発活動などにも取り組んでいます。

古紙の有効利用

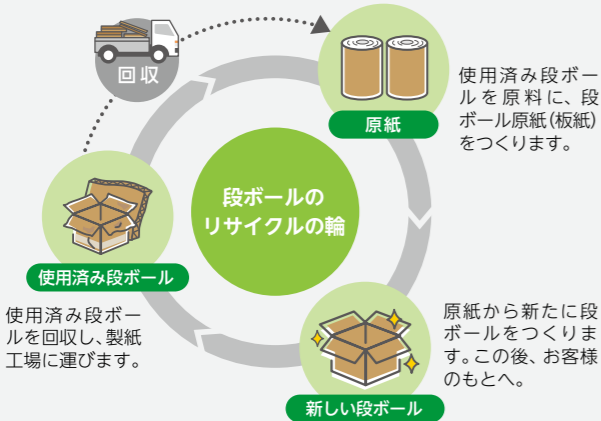
2020年度の「エコチャレンジ020」では、板紙生産に使用する原料中の古紙利用率を97%以上にすることを目標に設定し取り組んだ結果、古紙利用率は98.6%となり目標を達成しました。研究所や製紙工場では製品の品質を維持しながら古紙の配合率を高めるための技術開発や、機密古紙などの未利用資源を活用するなどさらなる古紙の有効利用を進めています。

【板紙の古紙利用率^{*1}の推移】



● レンゴー ■ 板紙業界
出所：(公財)古紙再生促進センター
※1 板紙製品全体の原料に占める古紙の割合
※2 業界は暦年、当社は年度で集計しています

つなげましょう！リサイクルの輪



段ボールのリサイクルマーク。それはリサイクル可能な段ボールであることを示すものです。現在、日本のリサイクルマークの表示率は90%以上にのびります。



古紙の利用拡大(機密古紙の利用)

八潮工場・尼崎工場・利根川事業所に機密古紙を処理する専用の設備を導入し、情報漏えいの問題から焼却処理されていた機密書類を製紙原料として利用しています。機密古紙を利用するにあたり、2015年度に八潮工場・尼崎工場、2016年度には利根川事業所で情報セキュリティ管理の国際規格であるISO27001の認証を取得し、適切なセキュリティ管理を行っています。セキュリティの完備された専用施設内での原料

の受け入れと、機密書類を収めた箱を未開封の状態のまま処理することを遵守しています。



製紙原料としてリサイクル

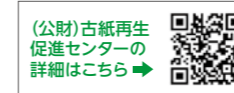


八潮工場では2014年から「臭気探知犬 シルク号」を採用し、臭い移りした古紙の混入を未然に防ぐ取り組みを行っています。シルク号による臭気探知を開始して以降、臭い付き古紙混入の件数は大幅に減少し、それに伴って製品のトラブルやロスが着実に減少しています。現在では「チャコ号」も加わり2頭体制で取り組みを強化しています。また、利根川事業所では「ライ号」が活躍しています。

臭気探知犬シルク号 臭い付き古紙を見つけると前足で知らせます。

古紙の品質向上

製紙原料とは無縁な異物や、製品トラブルの原因となる混入物は「禁忌品(きんぎひん)」と呼ばれており、回収に出す前に取り除く必要があります。感熱性発泡紙や昇華転写紙、臭いのついた紙などがこれに当たります。特に、石鹸や線香などの臭いが付いた古紙は、リサイクル後の板紙製品に臭いが残ってしまいます。リサイクルの過程で選別除去できなかった禁忌品は板紙製品の品質を著しく低下させるため、ホームページや出前授業を通じて禁忌品が混入しないよう適正なリサイクルの推進を広く呼び掛けています。



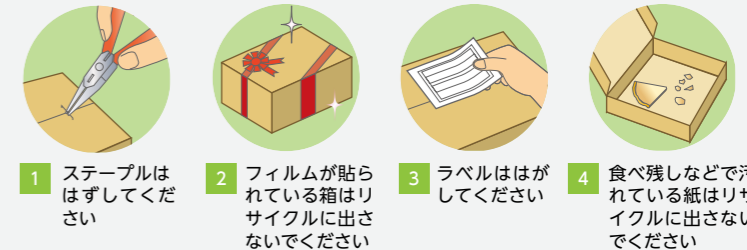
【代表的な禁忌品】

紙製品ではあるものの製紙原料とならないもの	
芳香紙、臭いのついた紙	洗剤・石鹸・線香などの紙製包装・紙箱・段ボール箱など
昇華転写紙	捺染紙・アイロンプリント紙
感熱性発泡紙	立体コピー紙(主に点字関係で使用される)
ろう段	ワックス付段ボール(輸入青果物・水産加工品などが入った箱)
食品残渣のついた紙	ピザやケーキの包装箱に食品がついたものなど
汚れた紙	油のついた紙、使い終わったティッシュペーパーやペーパータオル、ペットの汚物処理した紙など
紙以外のもの	
不織布(マスク、簡易お拭きなど)、使い捨ておむつなど	

出所：(公財)古紙再生促進センターの古紙標準品質規格より抜粋

段ボールをリサイクルに出すときのお願い

ステープル(金属針)やラベルなどはリサイクルの妨げになる異物です。回収された段ボール古紙から品質の高い段ボール原紙を生産するために、みなさんも異物の除去にご協力をお願いします。



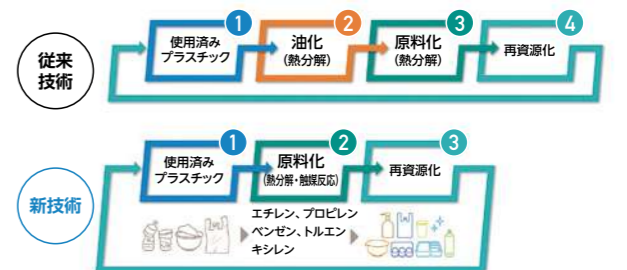
Topics 使用済みプラスチックの再資源化への取組み

2020年6月、サントリーMONOZUKURIエキスパート株式会社様の呼びかけにより、当社はプラスチックのバリューチェーンを構成する業界を超えた11社と共同で、使用済みプラスチックの再資源化事業に取り組む共同出資会社、株式会社アールプラスジャパンを設立し事業を開始しました。

世界で共通となっているプラスチック課題解決に貢献すべく、プラスチック製品のサプライチェーンに関わる各社との連携を強化し、2027年の実用化を目指しています。



【新技術模式図】



国内では、ペットボトル以外の使用済みプラスチックの多くが「サーマルリカバリー(燃焼処理)」によりリサイクルされます。新会社では、米国バイオ化学ベンチャー企業アネロテック社の技術を活用し、プラスチックを化学反応により直接原料に戻す「ケミカルリサイクル」、その中でも従来の油化工程を経由することなく環境負荷の少ない効率的な新たな再資源化技術の確立を目指しています。